

2017年8月30日

社長記者会見を開催

本日午後3時より、関西放送記者会（新聞社、通信社など18社で構成）を対象に、三村景一社長が記者会見を行ないました。会見の概要は以下の通りです。

■世界陸上2017 ロンドンの現場を視察した。帰国してから放送を見ると、現地のスタジアムで観戦するよりも分かりやすいと感じた。また、日本での放送時間が深夜や早朝になるなど、時差の関係で条件的に厳しかったが、男子100mや4×100mリレーなどは早朝にもかかわらず高視聴率で、本気できちんとライブで伝えれば、地上波は強いということを改めて実感した。

■Liveの強化に取り組む。

○本社M館2階を改修、ライブセンター（仮称）を設置

ライブ情報発信の基地として「ライブセンター」を作るべく、報道、制作、技術を中心に全社的な議論を重ねている。M館2階のギャラクシースタジオを大幅に改修して「情報フロア」とし、報道フロア同様に各地から集まる映像をウォッチしたり、情報デスクがニュースデスクと常時接続のテレビ会議システムで情報共有したりして、災害情報やニュースの速報、現在進行形の事象を生の情報番組内で速やかに発信できる態勢を整える方針。また、1階にある「ちゃぷらステージ」エリアをもライブセンターに組み込むことで一層開かれた放送局を目指していく。

○10月で「ちちんぷいぷい」スタートから満18年。19年目の新目標

10月2日（月）から、現在ある全ての企画を是々非々で再検討し、大胆にリニューアルしていきたい。

北海道放送（HBC）、鹿児島県の南日本放送（MBC）に加え、宮崎放送（MRT）でも番組の一部が放送されることになる。これら地域にも視聴者との距離が近い番組の持ち味を発揮できるよう、番組スタッフを北海道、鹿児島、宮崎に移住させて情報、街の声をダイレクトに番組化することなどを計画している。

また「家庭的で癒される」という番組のイメージを背景に、視聴者層がやや高齢化していることを自覚し、10月以降すべての企画を是々非々で再検討する。出演者の若返りや、「音楽・エンタメ」にこだわって番組発信のライブ、寄席などを定例化していくことなどで中高生から中高年までが楽しめる番組へと再構築していく。ニュース解説には昨年設けた解説委員を積極的に起用していく。

「ちちんぷいぷい」以外の「せやねん!」「サタデープラス」などについても、10月改編で強化に向け作業中。

○ラジオのナイターオフ編成でもライブの良さを活かした新番組

・「こちら茶屋町お天気部！（仮）」毎週金曜 20～21時（予定）

在阪で唯一の「お天気部（気象情報部）」を活かし、ニュース、経済、スポーツとクロスオーバーした気象情報を伝える。

○動画配信事業でもライブ配信を積極的に実施

テレビ番組の見逃し配信のプラットフォームとして一昨年スタートした「MBS 動画イズム」(無料)を来月大幅に改修し、ライブ配信が可能になる。今回の改修は、MBS 動画イズム内でスマートデバイス向けのアプリでもライブで動画が配信できる。

バラエティ、スポーツ、報道と様々なジャンルを取り扱い、地上波ではライブで放送しにくいコンテンツも積極的にライブ配信していく。当面の主な配信予定は以下の通り。

- ・9月20日(水)「歌ネタ王決定戦 2017 裏 LIVE 配信」
- ・9月22日(金)「関西学生アメリカンフットボールリーグ 京都大学対関西学院大学」
- ・9月24日(日)「堺市長選挙 開票特別番組」

○「金閣寺音舞台」で4K・立体音響ライブビューイングを実施

今年で30回目を迎える「音舞台」は、9月9日(土)に金閣寺で行なうが、ゲネプロが行なわれる前日の8日(金)に、4K映像と立体音響で楽しむことが出来るライブビューイングを実施する。

舞台正面に4Kカメラ3台を配置し、本社ギャラクシースタジオに設置した330インチの大スクリーン3台に投射。音声は演奏や環境音などを多数のマイクで集音し、客席を包み込むように配置されたスピーカーからあたかも金閣寺で観覧しているかのような臨場感を提供する。

今回は関係者のみ対象の実験で、一般の方に入らせていただくことが出来ないが、会場からの伝送において映像3系統、音声マルチチャンネルを用いたライブビューイングは他でも例を見ない取り組みで、今後は会場に足を運ぶことが出来ない方にもライブさながらの映像と音声を楽しんでいただける機会をご提供できると考えている。

○本社周辺でのイベントや新劇場など、視聴者・リスナーと直にふれあう機会の創出

- ・「シアターブラバ」に代わる新劇場

現在、前向きに進んでいる。公開番組制作や放送の機能を持たせたり、関西のイベント情報を紹介する場を作ったりといった、いろんなアイディアを出し合っている。

以上